

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 25 年度】

[事後評価]

No.	研究課題名	研究の概要 研究の成果	評価結果及び委員コメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
3	天然物由来粘性物質による染色排水の浄化に関する研究 繊維工業技術支援センター 平成 24 年度 (1 年間)	天然物由来粘性物質及び活性炭等による染色排水の脱色・COD成分の除去試験から、染料吸着は活性炭の吸着性能に大きく依存し、CODの削減は活性炭と無機凝集剤の両方の効果によることが大きいことを確認した。 天然由来粘性物質は、これらの凝集効果を促進し、染料の吸着や汚泥の沈降速度を速めることによって、従来の処理方法に比べて処理時間の短縮、処理排水の無色化等に効果があることを確認した。	【達成】 ・環境問題が重要視される今日、汚水の浄化は早急に確立すべき技術である。 ・処理時間の短縮、無色化の効果において目標を達成している。 ・地場産業に必要な技術ではあるが、地場産業の競争力向上に貢献するためには、さらなる研究開発が必要である。 ・現段階では、現状の技術を超えるところまでには至っていない。	・性能及びコストに関して定量的な目標設定が必要である。 ・コスト面での効果を上げる必要がある。 ・最終的に実用化できるかどうかを明確にする必要がある。 ・研究の特色が浄化プロセスにあるのか、浄化する媒体としての天然物由来粘性物質にあるのかを明確にすべきではないか。 ・技術の普及には、新たな設備の導入や粘性物質の価格などコスト面が問題であると考えられ、それを解決し成果の活用を期待する。 ・小規模事業所など適用しやすい事例からの実用化を目指してもらいたい。

No.	研究課題名	研究の概要 研究の成果	評価結果及び委員コメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
4	<p>高強度動物性タンパク質繊維の開発</p> <hr/> <p>皮革工業技術支援センター</p> <hr/> <p>平成24年度 (1年間)</p>	<p>高強度なコラーゲン繊維を作るためには、紡糸液であるコラーゲン溶液の濃度を上げることと、大きな延伸が効果的であることを確認した。これらの手法を組み合わせることにより、60MPa以上の強度を持つ再生コラーゲン繊維の調製を可能とした。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 皮革産業の副産物利用の観点から、重要な技術である。 目標をほぼ達成しており、今後の発展が期待できる。 皮革産業の活性化に必要である。 皮革産業の新展開に繋がる技術開発である。 現段階では商品化まで時間がかかると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> コストや扱いやすさ等の問題解決を期待する。 ユーザー視点から、競合製品との競争力を強化する戦略が必要である。 繊維メーカーと共同開発できるレベルに早期に到達することを期待する。 商品化の努力とともに、高機能化が必要である。 商品としてアピールできる点を明確にしてもらいたい。 高機能化で医療材料を目指すのか、汎用の衣料材料を狙うのか、新技術の特性を生かした用途を探索し、企業への技術紹介を通じて実用化を期待する。